

令和6年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業」 指定校発表会

島根県立隠岐島前高等学校
地域共創科の挑戦事例



3つの自治体を合わせて「**隠岐島前地域**」



▶本土から沖合約60km/フェリーで3時間

▶東京からの王道ルートは、

羽田→米子→バス→フェリー（7時間）

▶人口 島前全体 5,300人

海士町2,200人 西ノ島町2,500人 知夫村600人

▶学校 島前地域に1つの高校「**隠岐島前高校**」

海士町 中学校1・小学校2

西ノ島町 小中一貫校1つ

知夫村 小中一貫校1つ

▶ちなみに住んでいる島は

コンビニ0/信号1つ/喜ばれるお土産はミズド

島根県

隠岐島前高校について

隠岐島前地域の生徒が通学できる唯一の高等学校

教育課程

全日制・普通科/地域共創科 ※2年次より学科別

生徒数

全校生徒167名 ※R4

1年:49名 2年:51名 3年:50名
寮生:101名 自宅生:49名

学級数

1 学年 2 学級

教職員数

全教職員42名

校長、教頭、教員27名、養護教諭
実習助手、司書、事務 4名、
魅力化スタッフ 6名 ※常勤のみ

校訓

真理・理想・進取

真理に根ざし理想を掲げ、新しい
ことに自ら進んで挑戦する。

部活動

レスリング部
バレーボール部 (男/女)
ソフトテニス部 (男/女)
バスケットボール部 (男/女)

軟式野球同好会
ヒトツナギ部
地域国際交流部

4つの資質・16の能力【グローバル人材】

- ・ 地球的視野で考えながら、足元から実践していける人材
- ・ ふるさとや地域を想いながら、実践家として活躍できる人材

主体性

自己肯定感・課題設定力
行動力・粘り強さ

協働性

受容力・対話力
表現力・共創力

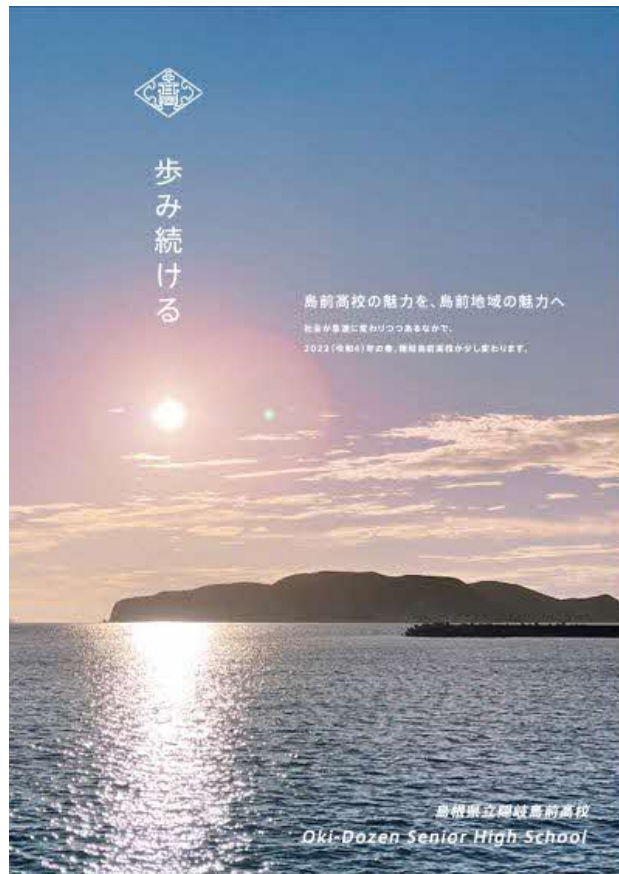
探究性

学びの意欲・情報活用力
批判的思考力・省察力

社会性

地域貢献意識・社会参画意識
グローバル意識・持続可能意識

探究の次のステージを目指して【地域共創科】創設



毎週1日を学校外でプロジェクトに没頭できる
「地域共創DAY」をカリキュラムの特徴として
スタート。1期生20名、2期生21名が地域共
創科を選択。地域も巻き込み伴走中。

事例① 地域×探究(地域共創科)

共創Day 丸1日ぶち抜き探究！本気の地域共創！

テーマ： 隠岐島前の星の可能性

隠岐島前の星を地域資源として発掘し、観光振興やテーマ型コミュニティの形成に取り組む。

生徒のやりたい！発信型



事例② 地域×探究(地域共創科)

共創Day 丸1日ぶち抜き探究！本気の地域共創！

テーマ：「みんな違って当たり前」を広める架け橋

地域の小学校と連携し異文化理解教育を実践。多文化共生社会を目指して活動中。

自身の問題意識出発型



レマカの学び

タイムテーブル

4.20 (土)

15:00～	会場（あままりー 遊戯室）
15:10～	アイスブレイク
15:15～	ネパールについて
15:20～	レマカの学び
15:50～	替え合わせ
16:00～	カードの解説
16:20～	この場を作った理由
～16:30	おわり



事例③ 地域×探究(地域共創科)

共創Day 丸1日ぶち抜き探究！本気の地域共創！

テーマ：集まる×繋がる×創る

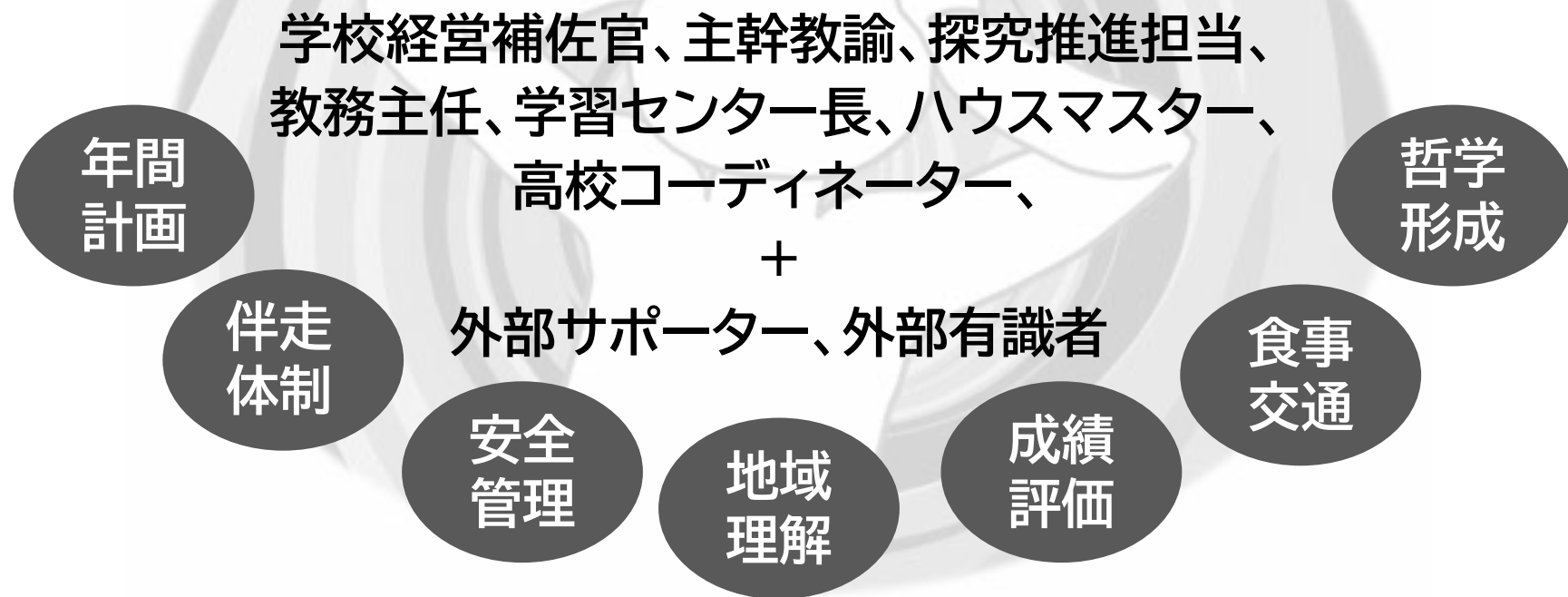
役場の新庁舎にヒト・モノ・コトがつながり、発展する交流スペース
にすることで地域内交流、イノベーション誘発を図る。

地域から課題受けとめ型

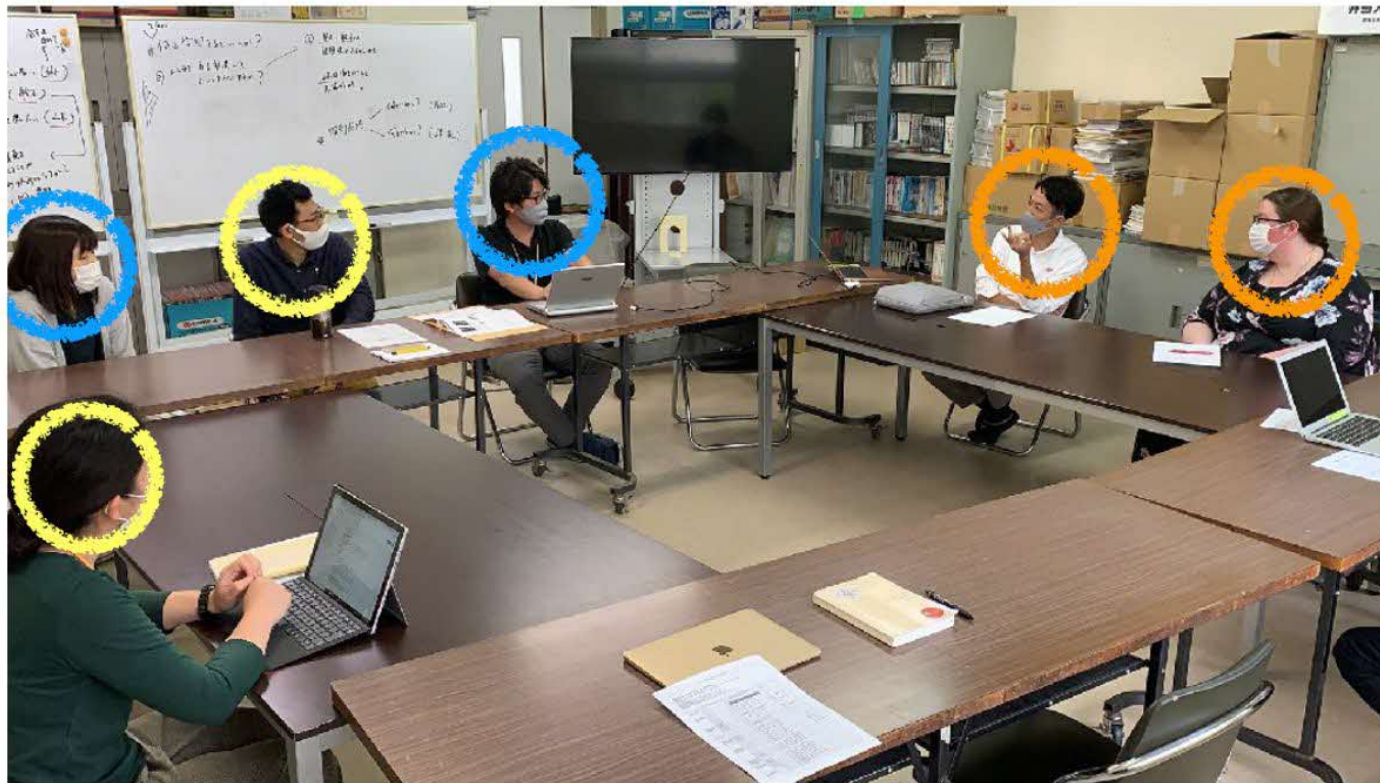


新学科カリキュラムワーキングでの苦悩

叡智を結集して、新学科のビジョン、カリキュラム、システムを考える。



**大人がまず率先して実践
教職員＋コーディネーター＋学習センタースタッフの
協働チームで日々試行錯誤！**



コーディネーターに必要なあり方とは？

教育経営×地域経営の視点を持った 学校の「非常識」



今までの自分たちを問い直す時が来た

高校・高校生は
地域を消費しては
いないか？

いつの間にか
学校の世界に
閉じていないか？

生徒の個性と
創造性は発揮
されているか？

学ぶことで止まって
いないか？

W

違う価値基準を示す

「生徒のため」か「地域のため」か？という二項対立のを超えて、学校の中でも二項並存の必要性を示してこそ学校と社会を繋ぐ存在では？

探究学習 in地域

生徒の学び
成長

大人の
気づき

本気の 地域共創

生徒の学び
成長

地域の変化
社会的
インパクト

「地域探究」の次のステージ【地域共創】

カリキュラム策定、仕組み化、運営チームの目線合わせのためにも
新学科のビジョンを検討した。

探究的な学び
プロジェクト学習



高度化する

地域との協働
地域からの支援



関係を深める

新しい普通？特色化しているか？

「地域探究」の次のステージ【地域共創】

カリキュラム策定、仕組み化、運営チームの目線合わせのためにも
新学科のビジョンを検討した。

探究的な学び
プロジェクト学習



地域との協働
地域からの支援



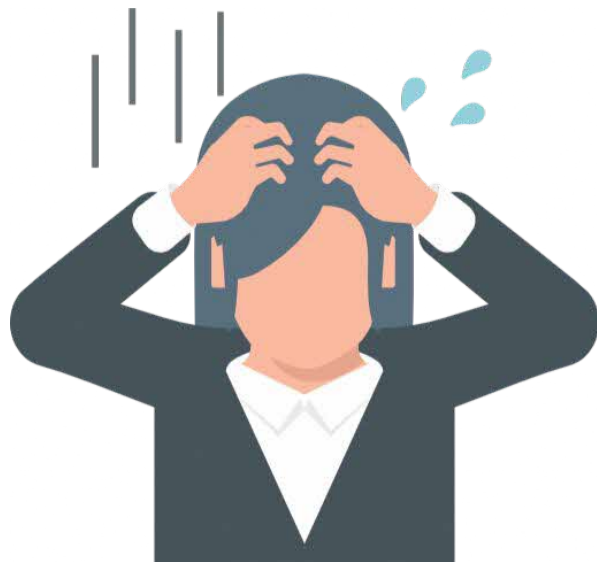
vision

仲間と共に、
大人と共に、
地域と共に、
意志ある未来を創る

新しい普通としての **地域共創**

新学科ワーキングをやっていて分かったこと

教員だけで新学科を作ることはできない。



新学科を創ることは、
多くの教員にとって未経験で悩
ましい仕事といえる。

ビジョン

学び方

学びの場

リソース

ステークホルダー

全て“新しい”が内容を考え、
実現までの新しいプロセス設計
が必要になる。

グレーゾーンの可能性を探る

学校にとっての未経験、未知を切り拓くことにこそコーディネーターの価値がある。【今までの何を壊せるか？という問い】



新学科を創ることを、
新しいプロジェクトを立ち上げて
実行すると考えるとコーディネーターが学校教育外で実践してきた経験が活かせる。

学校が未経験に飛び込むとき

コーディネーターの真価が発揮される。

新学科のために新しい仕組み、文化を創る

ビジョン(地域共創)が現実化するための、仕組み・環境を創り出す。

特徴的な仕組み

1日自由に活動
共創DAY
(学校独自設定科目)

クラス・学年を超えた
伴走ゼミ
(4つのゼミ)

多面的対話的な
評価システム
(合意に基づく成績)

Y 新しい仕組みを創る

ビジョン(地域共創)が現実化するための、仕組み・環境を創り出す。

特徴的な仕組みの背景にある考え

生徒に時間を返す

1日自由に活動
共創DAY
(学校独自設定科目)

「学んだ」で終わらない

クラス・学年を超えた
伴走ゼミ
(4つのゼミ)

指導と評価の深化

多面的・対話的な
評価システム
(合意に基づく成績)

時間を生徒に、地域に返す＝没頭できる時間を創る

学校独自設定科目 2年【地域未来共創】 3年【グローバル未来共創】

朝	1限	2限	3限	4限	5限	6限	放課後
---	----	----	----	----	----	----	-----

- ✓ 毎週6コマぶち抜き。
- ✓ 原則、予定は生徒が組む。
- ✓ 登校、帰校の必要性はない。

【夢探究】

隔週で総合的な探究の時間

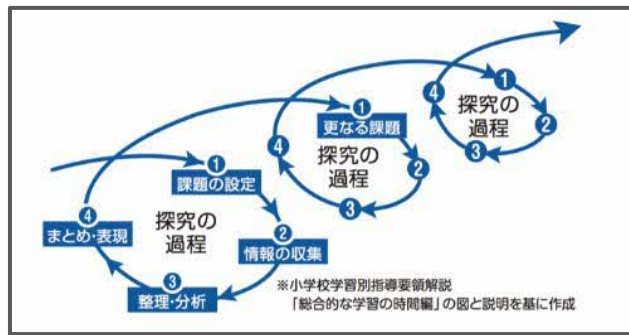
1コマ	2コマ
-----	-----

活動時間
は従来の
4倍



生徒・地域
のアクション
量も4倍

カリキュラムをより弾力的に【学習の個性化】



【従来の学習サイクル】

学習指導要領における探究のサイクル
・PDCAサイクル、アカデミックサイクル



【試行錯誤・今のところの解】

生徒が目的や課題を設定する前の「探る」
活動を応援し、ジェネレーターのように共
に学びを創っていくスタンスをとる。

生徒の(初期)行動や生煮えのアイデアを前に、社会性のある目的、明確な目標、課題設定と
その根拠を問い始めると生徒の学びの芽と意欲を削ぐ場合が多い。

評価を対話的に【指導と評価の深化】

新しい指導と評価のあり方を目指して成績評価の仕組みを創る。

レポート試験

記録ノート

活動観察

活動発表

生徒の共創活動を多面的に捉えて指導と評価に活かす(多面的評価)

生徒の自己評価



より対話的に

+

ゼミ担当者との
評価対話



生徒自身の中で、伴走者と共に“次の学習課題を設定”する評価文化への転換を図る。

カリキュラムをより弾力的に【学習の個別化】



地域共創を行うための最低限
の基礎的スキルを集中的に
学習するオリジナルコンテンツ

生徒の見取りを基に順番と
内容を組み替えて最適な
内容とタイミングでの実施

生徒の実践状況を見取り、適切なタイミング(壁に何度もぶつかっている時)に必要な最小限のスキルを提供する。「知識後入れ」の法則。

カリキュラムをより弾力的に【個別最適化】

生徒の多様な関心を汲み取りつつ隠岐島前での真正性のある4領域で
伴走・共学のゼミを組成。



**産業
ビジネスゼミ**



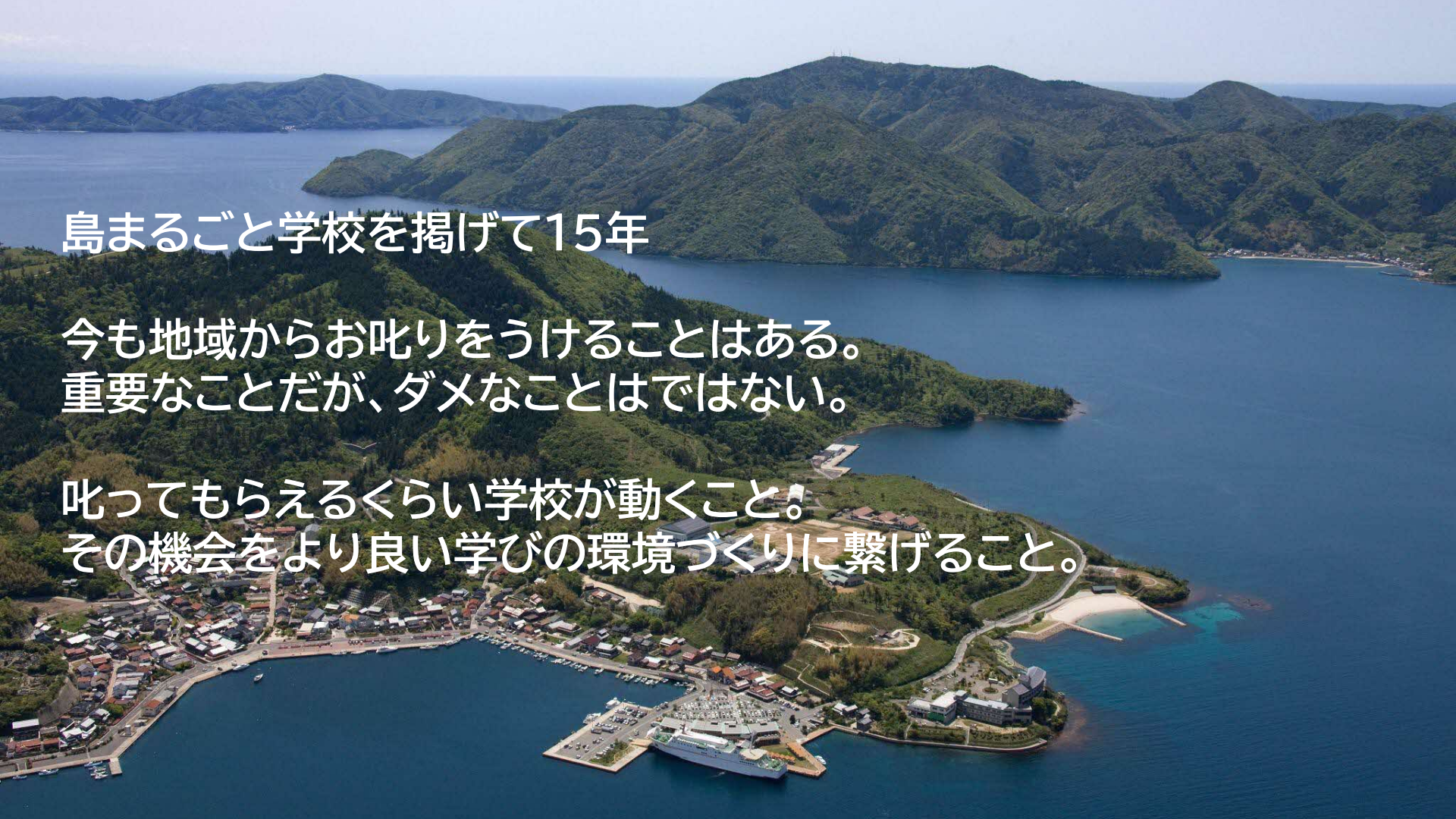
**教育・福祉
医療ゼミ**



**自然
農林水産ゼミ**



**暮らし交流
ゼミ**

An aerial photograph of a coastal town and harbor. The town is built on a peninsula, with a large harbor area in the foreground. A large ship is docked at a pier. The background features rolling green mountains and a body of water. The sky is clear and blue.

島まるごと学校を掲げて15年

今も地域からお叱りをうけることはある。
重要なことだが、ダメなことではない。

叱ってもらえるくらい学校が動くこと。
その機会をより良い学びの環境づくりに繋げること。

プロジェクト伴走者がキャリア伴走者に

キャリア(進路)について、担任丸抱えを脱却する。プロジェクトに伴走してきた者が、その生徒のキャリア形成にも伴走する

【プロジェクト】
問題意識
成長意欲
アイディア



【キャリア教育】
ロールモデル
志・ビジョン
成長できる場所



島前モデルの
キャリア伴走で
意志ある進路実現
を目指す

隠岐島前のコーディネーターが次にやること

教育の成果や地域の変化は測りにくい、、、しかし、成果を出すこと説明することにこだわり続けたいといけなない。

- ・学校評価アンケート
- ・MURCや大学による経済効果の分析
- ・学校、地域における生徒の教育活動・学習環境の評価システム



- ・地域の健康寿命
 - ・自治体魅力度ランキング
 - ・育児環境指標と出生数
 - ・還流人口、関係人口
 - ・卒業生のキャリア形成
- 様々な価値を測り、高める